

佐野利器博士の家族とその人脈

Study on Dr. Toshikata Sano's family and connections

○宇於崎勝也¹*Katsuya Uozaki¹

Abstract: Dr. Toshikata Sano is a scholar who laid the foundations for earthquake-resistant structures in Japan. His many other achievements include holding various positions in the government and local public organizations, and contributing to the spread of the metric system and the Roman alphabet in Japan. Meanwhile, in his private life, he had one son and four daughters, all of whose family members were involved in the architectural world. Research also revealed that his wife's family were also involved in the architectural world, making them a family of architects.

1. はじめに

本稿は、わが国の建築界を築きあげた第2世代の中心人物である佐野利器博士に着目する。佐野はドイツに留学し、帰国後、「家屋耐震構造論」で建築構造・耐震構造の体系化を行うとともに、日本大学工学部（現・理工学部）や東京工業大学の設立にもかかわった。佐野に関する先行研究は多く、建築構造や耐震、震災復興^[1]で果たした役割、政府や地方公共団体の多様な役職、メートル法やローマ字を日本に普及させた貢献などさまざまな実績は既に明らかにされていることから^[2]、本稿では佐野の家族とそこからつながる人間関係について資料にもとづき明らかにする。

2. 佐野利器の生涯^{注1)}

佐野は明治13（1880）年4月11日に山口三郎兵衛とゑんの四男として山形県荒砥町（現・白鷹町荒砥）で誕生し、安兵衛（安平）と名付けられた。15歳で父が亡くなると学業を続けるために佐野誠一郎の養嗣子となり、佐野利器と名を改めた。県立米沢中学校から旧制第二高等学校に移り、その後、養父の助言もあって東京帝国大学工科大学建築学科に入学した（23回生）。明治36（1903）年7月に23歳で大学を卒業すると大学院に進学し、8月には東京帝国大学の講師となった。明治39（1906）年に助教授となり、明治42（1909）年11月に佐野家の養女となっていた（秦）美和と結婚している。しかし、美和は大正3（1914）年10月に死亡し、大正4年（1915）年2月には美和の妹・ませと再婚して一男四女をもうけている。長男・啓一（大正8（1919）年12月生）も東京帝国大学工学部建築学科を卒業したが、昭和18（1943）年10月に南方海域で戦死している。4人の娘はいずれも東京帝国大学（東京大学）の建築学科を卒業し、建築の職に携わる者と結婚してい

る。昭和20（1945）年4月に二女・千代（子）の二男・晴男が誕生すると嗣子としたが、近年、晴男は中田姓に戻り^{注2)}、佐野自身も昭和31（1956）年12月5日に亡くなっており、佐野姓を継ぐ者はいなくなった。

3. 佐野利器の家族

佐野の子供は、長女・芳子（明治43（1910）年10月生・美和の子）、二女・千代（子）（大正4（1915）年10月生）、三女・静（子）（大正6（1917）年10月生）、長男・啓一、四女・正（子）（大正11（1922）年1月生）の5名である。

4人の娘が嫁いだ先は、芳子は武藤清（東京帝国大学教授・鹿島建設副社長・構造）、千代子は中田亮吉（逋信省・日本電信電話公社理事・計画）、静子は薬師寺厚（郵政省建築部長・藤田建設専務・計画）、正子は天沼彦一（国鉄鉄道技術研究所技術情報部長・計画）であり、特に武藤は佐野の大学の講座を引き継いだ愛弟子（長男・啓一の卒業論文「大スパン構造物に関する研究」の指導教員）である。二女の夫・中田は婚約後に初めて佐野にあったと述べており^{注3)}、佐野の意志で建築職の人物にあえて嫁がせたわけではないと思われる。

また、先妻・美和は秦継弘（山形県宮生村の村長（現・上山市）の長女、後妻・ませは二女で、兄妹には長男・秦鷲雄、二男・橘節男がいる。秦鷲雄は文部省技士で同僚であった伊藤高蔵とともに東北で初めての設計事務所「秦伊藤建築設計事務所（現・秦・伊藤設計）」を大正13（1924）年に開設して、山形県内初の鉄筋コンクリート造の山形市立第一小学校を設計しており、それ以前にも佐野が無償で設計した荒砥小学校の奉安殿（大正11（1922）年・RC造）の建設にあたっては、秦が工事監督として派遣されている^{注4)}。橘節男も東京高等工業学校教授（設計・計画）であり、秦家の三女

1: 日大理工・教員・建築, Department of Architecture, CST., Nihon-U.

の夫は谷口忠（東京工業大学教授・構造）と親戚筋も皆建築界に関係している。

さらに、秦家は養母・佐野鐵の姉・き和の嫁ぎ先で、佐野と秦兄弟・姉妹はいとこの関係にあり、佐野と秦兄弟は10代の頃から兄弟のように仲が良かったという^{注5)}。あわせて、佐野と秦兄弟は学生時代に東京の本郷弓町で同居し、互いに助け合って生活していた^{注6)}。

4. 佐野利器の私生活と家族との付き合い

佐野は紙巻タバコ（敷島）をかなり吸っていたが、昭和14（1939）年1月に満州視察から戻ると肺炎を患い、以降タバコをやめた^{注7)}。昭和31（1956）年に肺気腫で亡くなったのは、この喫煙が遠因となっていると考えられている^{注8)}。エビ、カニ、ウナギは嫌いで^{注9)}、酒は飲まず、負けず嫌いからゴルフ、碁・将棋などの勝敗がつくことには手を出さず、一方、浪花節や義太夫は好きで^{注6)}、舞台を見に行ったり、ラジオに合わせて「語った」りしていたという。

「人一倍子煩悩で子供等と話す時は全くよき親爺振りでニコニコして子供等の話を聞いていた」^{注10)}、「非常に子供思いのよいおやじとしての印象しか持っておりません」^{注11)}、といった娘婿たちの文章を読むと、孫たちが相手のときには非常に優しい「おじいちゃん」であったことが伺える^{注12)}。

5. まとめ

佐野が関係したさまざまな仕事に精力的に取り組んだことは、先行研究の至る所で見出すことができる。一方家庭では、最初の妻・美和とはわずか5年で死別（うち3年間は留学）、翌年2月、美和の妹・ませと再婚し、帰国後に取りまとめた「家屋耐震構造論」の提出と学位授与が3月、5月に実母の山口ゑんが入院療養の末死去と、数か月のうちに精神的な負担が大きな期間があった。

さらに、49歳で東京帝国大学と東京工業大学を退職して清水組副社長となり、戦後の建設業界を立て直して3年で退職、日本大学で教育に注力するとともに国立大学でも講師を続けて多くの学生を育てた。しかし、59歳で日本大学の全ての職を退任するなど、教育者として教育・研究に最も情熱を傾けられる晩年に大きな環境の変化を迎え、あわせてこの間に養父母が相次いで亡くなり、長男が戦死するなど不幸も続いている。

強い意志で仕事に厳しく「佐野鉄」呼ばれた佐野利器も、最晩年には鎌倉の自宅において孫に優しいよい「おじいちゃん」となっていた姿を見出すことができた。

謝辞

本稿は、令和6年度の学術講演会で採用しなかった、佐野家から預かった資料をきっかけとしている。また、小嶋勝衛元教授から譲られた資料、山形県の白鷹町歴史民俗資料館及び上山城郷土資料館から貴重な資料を多くいただいた。ここに記して御礼を申し上げる。

注釈

- 1)多くの記述は、佐野博士追想録編集委員会編：「佐野博士追想録」、非売品、1957.11にもとづく
- 2)桜門建築会会長の今村雅樹氏が佐野の嗣子であった中田晴男氏と面談し、伺った話から。
- 3)中田亮吉：「追悼」『佐野博士追想録』、佐野博士追想録編集委員会編、非売品、p.128、1957.11
- 4)石井紀子：「佐野利器の長男、義兄について」会報66史談、白鷹町史談会、2022.9
- 5)佐野博士追想録編集委員会編：「佐野博士追想録」、非売品、p.3、1957.11
- 6)橋節男：「若き日の博士を思ふ」『佐野博士追想録』、佐野博士追想録編集委員会編、非売品、p.125、1957.11
- 7)山口正三：「酒・煙草・酸素」『佐野博士追想録』、佐野博士追想録編集委員会編、非売品、p.132、1957.11
- 8)橋本虎六：「佐野先生の御病歴と御病床生活の事等」『佐野博士追想録』、佐野博士追想録編集委員会編、非売品、p.94-98、1957.11
- 9)福田重義：「佐野先生の思出かれこれ」『佐野博士追想録』、佐野博士追想録編集委員会編、非売品、p.102-103、1957.11
- 10)中田亮吉：「追悼」『佐野博士追想録』、佐野博士追想録編集委員会編、非売品、p.128、1957.11
- 11)天沼彦一：「追憶断片」『佐野博士追想録』、佐野博士追想録編集委員会編、非売品、p.135、1957.11
- 12)佐野利器：「住宅論」、文化生活研究会、1925には、「子ども至上主義」的な主張が盛り込まれている。

参考文献

- [1]宇於崎勝也・今村雅樹・大川三雄・田所辰之助：「佐野利器による『帝都復興ニ関スル意見 其一』について—帝都復興に関する私案—」、日本大学理工学部学術講演会予稿集 pp.417~418、第68回大会、2024.12
- [2]日本大学理工学部広報委員会：「特集 100周年へのカウントダウン(1)日本大学理工学部の礎を築いた佐野利器」、理工サーキュラーNo.173、2017.summer
- [3]佐野誠一郎作成：「佐野氏系譜」、上山城郷土資料館所属
- [4]山口邦夫：「日本の耐震建築の創始者 佐野利器」、遊学館ブックス山形の先達達2、pp201-245、1998.3